

プラセンタって、どういうもの？

プラセンタとは……

プラセンタ (Placenta) とは哺乳動物の「胎盤」のことですが、医療や医薬品の世界では、この英語の呼び名の方が広く使われています。

胎盤は、母親の子宮の中に着床した受精卵が胎児として大きく育っていくとき、母体と赤ちゃんをつなぐ「臨時的臓器」としてつくられ、出産が終わるまで働き続けます。



この胎盤に、胎児は「へその緒」で結ばれ、成育するのに必要な全ての栄養や酸素を受け取り、反対に排泄物を母親の体に渡しながら、どんどん成長していきます。

胎盤の働きはこれだけでなく、ホルモンや生理活性物質、各種の成長因子など全てを胎児に供給し、さらに毒物や異物の侵入から胎児を守る免疫機能も果たすのです。

薬やサプリメントとして活躍

目にも見えない小さな受精卵を、わずか10ヵ月で平均3kgもの赤ちゃんにまで育て上げる胎盤の働きに着目し、その成分を活用するために開発されたのが、医薬品やサプリメントなどのプラセンタ製品です。

わが国で注射薬とサプリメントが相次いで完成したのは戦後間もない頃でしたが、やがて訪れた新薬ラッシュに押されてなかなか表舞台に立てませんでした。しかし状況が変わり新たに統合医療が台頭するとともに、有効範囲の広いプラセンタが一気に注目されるようになったのです。

そして現在——誰もが若々しくありたいと願い、体にやさしい全身的な医療が求められる中で、プラセンタの優れた特性がいよいよ評価を高めつつつけています。

古くから世界中で使われてきたプラセンタ

胎盤を利用する歴史は古く、中国では「紫河車ししかいしや」という名前で約4千年前から、産後の回復や滋養強壮、末期の蘇生薬として使われてきたということです。ヨーロッパでも紀元前4世紀に、「医学の父」と呼ばれるヒポクラテスが胎盤の利用について書き残しています。

人々が古くから胎盤に注目したのは、草食・肉食動物を問わず出産後の動物たちが胎盤を食べてしまうのを見て、その有効性に気づいたためと考えられています。

プラセンタ注射をする用量と回数？

治療目的や重症度により変わりますが、注射の場合は次の用法・用量が基本になります。

用法・用量の基本

- 保険診療の場合：添付文書に従うこと。通常1回1A（アンプル）を週2回、皮下注射する。重症であれば週3回。効果が見られるまでに3～6ヵ月かかることが多い。
- 自由診療の場合：用量は症状により1A～10Aの範囲で適宜増減し、上腕外側か臀部に注射する。個人差があるが5A以上注射するときは、両上腕や両臀部など2ヵ所に分ける。

効果を高める注射の打ち方

最初の3ヵ月は治療間隔を短くした方が、効果を実感しやすい。

週2回通院可能	→ 1回2～3A
週1回通院可能	→ 1回3～4A
10日～14日に1回通院可能	→ 1回4～6A
3週間に1回通院可能	→ 1回6～8A
1ヵ月に1回通院可能	→ 1回8～10A

※この治療頻度を、効果が見られるまで継続する。その後治療頻度を減らすことも可能。

治療目的による注射・通院の目安

疾患名	通院頻度	期間の目安
更年期障害・乳汁分泌不全	週1～2回（重症度に応じる）	3～6ヵ月
月経困難・月経不順	週1～2回	3～6ヵ月
花粉症	週1回	3ヵ月
アトピー性皮膚炎	週1～2回（重症度に応じる）	3～12ヵ月
気管支喘息	週1～2回（重症度に応じる）	3～12ヵ月
慢性肝炎	週1～3回（重症度に応じる）	6～12ヵ月
関節リウマチ	週1～3回（重症度に応じる）	6～12ヵ月
抗疲労効果	適宜	6～12ヵ月

監修：長瀬 眞彦（吉祥寺中医クリニック）

医療機関名：

プラセンタ療法をどう存じますか？

プラセンタは
新陳代謝を活発にし、
自然治癒力を高めます。

当院では適切な用量・用法を検討し、無理なく正しい治療を実施しています。

お気軽にご相談ください。

制作：日本胎盤臨床医学会

医療とプラセンタ

自然治癒力を高める

プラセンタが医療現場で幅広く用いられる最大の理由は、「自然治癒力」の強化にあります。

人体は軽い傷を負ったり、風邪を引いたり、疲労困憊して精神的に落ち込んでも、時間が経つと回復します。このとき私たちの体内で働いている力が「自然治癒力」です。

ところがこの力が衰えてくると回復が遅れ、病気や体調不良の状態が長引き、ついに大事に至ることにもなりかねません。

プラセンタはその「自然治癒力」を強力に後押しし、自分の力で病気や身体の不調を慢性化させないように働いてくれる「自然薬」として注目を集めているのです。

プラセンタは用途が広い

普通に使われている医薬品は、何か特定の病状を抑えるために使われます。ですから例えば頭痛薬を、下痢や花粉症や夜尿症などに使うことはしません。ところがプラセンタは右の一覧表にあるように、数えきれないほどの病気や症状に使って効果を発揮しています。

その不思議さも、「自然治癒力」を念頭に置いて考えれば答えが得られるのではないのでしょうか。病状が現れた原因がいろいろであっても、くずれた体調を正常に戻そうとして働く「自然治癒力」が強化されれば、おのずと病状は回復するはず。「プラセンタには体調を調える力がある」といわれるのは、そのような「自然治癒力」の働きを念頭に置いての言葉でしょう。

プラセンタの薬理作用

あまりにも広範なプラセンタの働きですが、その薬理作用は①自律神経調整作用（自律神経のバランスを整える）、②強肝・解毒作用（肝臓の働きを高める）、③基礎代謝向上作用（基礎代謝・新陳代謝を高めて細胞や組織を活性化させる）、④免疫賦活作用（免疫力を強化して抵抗力を高める）、⑤抗炎症作用（炎症を抑え、壊れた組織を修復する）、⑥内分泌調整作用（内分泌系のバランスを整える）、⑦活性酸素除去作用（細胞を壊す活性酸素を除去して酸化を防ぐ）、⑧血行促進・造血作用（造血組織を刺激して血流を良くする）——などが考えられています。

プラセンタ療法の効果

普通の医薬品に限られた病気（症状）にだけ効くの 비해、プラセンタ注射は単独で、右の一覧表のように多くの診療科のさまざまな疾患に有効です。

現在、健康保険の適応は「肝機能障害」と「更年期障害、乳汁分泌不全」ですが、実際には右の表に示したような多くの効果の他に、美容やアンチエイジング効果まで広く知られているのですから驚きです。

プラセンタは医療用の注射薬以外にも、経口服用する医薬品、サプリメントとしての錠剤や顆粒カプセルやドリンク、肌につける美容液、クリームへの配合など、扱いやすい多くのタイプが揃っていますから、かかりつけ医にも相談して自分に合った使い方を工夫されることをお勧めします。

なぜ効果があるのでしょうか？

これまで長年にわたって患者さんと臨床医が現場で効果を実感してきたプラセンタ療法ですが、現在のところ、単一の有効成分はわかっていません。もともとは紫河車という動物性生薬しょうやくが注射薬になっていることを考えると、多成分が複合して効果を発現しているのではないかと考えられています。

プラセンタには早くから①抗酸化作用、②抗炎症作用、③抗老化作用があることがわかっていましたが（下記参照）、さらにこれらに加え、④遺伝子修復作用（放射線障害の回復）もあることが明らかにされました。

通常なら20日以内に死亡する放射線量を浴びたマウスでも、プラセンタエキスを注射しておけば200日も健康な状態で生きられることが、下記の論文④によって判明されたのです。

- ① Togashi S, Takahashi N, Kubo Y, et al. Purification and identification of antioxidant substance in human-placenta extracts. J Health Sci. 2000;46(2):117-25.
- ② Kawakatsu M, Urata Y, Goto S, Ono Y, Li TS. Placental extract protects bone marrow-derived stem/progenitor cells against radiation injury through anti-inflammatory activity. Journal of radiation research. 2013;54(2):268-76.
- ③ Lin PC, Chiou TW, Liu PY, et al. Food supplement 20070721-GX may increase CD34+ stem cells and telomerase activity. J Biomed Biotechnol. 2012; 498051.
- ④ Mochizuki H, Kada T. Restorative effects of human placenta extract in X-ray-irradiated mice. J Radiat Res. 1982 Sep;23(3):403-10

プラセンタのよく効く病気一覧

内科	慢性疲労症候群、胃弱、胃炎、胃潰瘍、食欲不振、片頭痛、高血圧症、C型慢性肝炎、アルコール性肝炎、肝硬変、気管支喘息、食道静脈瘤、心室性期外収縮、発作性心房細動、ブルガダ症候群
整形外科	肩こり、五十肩、肩関節周囲炎、腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎すべり症、脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、変形性膝関節症、変形性股関節症、線維筋痛症、帯状疱疹後神経痛、関節リウマチ、骨粗鬆症、脊椎圧迫骨折
婦人科	更年期障害、生理痛、月経前症候群（PMS）、生理不順、無月経、冷え性、子宮筋腫、乳汁分泌不全
皮膚科	アトピー性皮膚炎、じん麻疹、日光過敏症、湿疹、肌荒れ、にきび痕、そばかす、シミ、乾燥肌、薄毛、褥瘡、肝斑、白斑
心療内科	自律神経失調症、うつ病（うつ症状）、不眠症、気分変調症、自閉症、引きこもり、不安障害、統合失調感情障害、アルツハイマー型認知症
耳鼻咽喉科	花粉症、アレルギー性鼻炎、耳鳴り、めまい、難聴、嗅覚障害、メニエール症候群
歯科口腔科	歯周病、歯肉炎、歯槽膿漏、顎関節症、金属アレルギー、口腔乾燥症、歯科心身症、抜歯・インプラント手術後の治癒促進
その他	前立腺肥大、三叉神経痛、パーキンソン症候群、肥満、眼精疲労、視力低下（軽度遠視・近視）、緑内障、角膜炎

（日本胎盤臨床医学会大会における「臨床発表」による）

◆ プラセンタの安全性 ◆

プラセンタ注射薬は化学合成した薬ではなく、ヒトの胎盤のみを原料としてつくられます。

そのためウイルスや細菌が絶対混入しないように、胎盤を提供してくれるお母さんの健康状態を入念にチェックするとともに、集められた胎盤は専門機関で厳しい検査を受けます。その上で製薬工程においても加水分解を行った後、121℃という高温で60分間滅菌し、危険性を徹底的に排除しています。

◆ プラセンタの副作用 ◆

薬といえば副作用が問題視されますが、プラセンタでは注射部位に時として疼痛・発赤・発疹などが見られることがあります。

そのときは医師にお申し出ください。

更年期障害には こんな症状があります。

顔が
ほてる



汗をかき
やすい

すぐ
イライラ

手足の
痛み

寝つきが悪い
眠りが浅い

肩こり
腰痛

頭痛
めまい
吐き気

息切れ
動悸がする

腰や手足が
冷えやすい

くよくよ
する

疲れ
やすい

憂うつに
なる



更年期障害による諸症状

のぼせ・冷え・ホットフラッシュ・イライラ感・不眠・頭痛・めまい・
生理不順・疲労・肩こり・腰痛・関節痛・便秘・うつ・など。

更年期チェックシート

Let's
check!



簡略更年期指数 (SMI) で自己チェックしてみましょう
症状の程度に応じて、自分で○をつけてから点数を入れ、そ
の合計点をもとにチェックします。どれか1つの症状でも強く
であれば「強」に、○をしてください。

症 状	強	中	弱	無	点数
顔がほてる	10	6	3	0	
汗をかきやすい	10	6	3	0	
腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
息切れ、動悸がする	12	8	4	0	
寝つきが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0	
怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0	
くよくよしたり、憂うつになることがある	7	5	3	0	
頭痛、めまい、吐き気がよくある	7	5	3	0	
疲れやすい	7	4	2	0	
肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0	

合計

更年期指数の自己採点の評価法

- 0～25点 …… 上手に更年期を過ごしています。これまでの生活態度を続
けていいてしょう。
- 26～50点 …… 食事、運動などに注意をはらい、生活様式などにも無理を
しないようにしましょう。
- 51～65点 …… 医師の診察を受け、生活指導、カウンセリング、薬物療法を
受けたほうがいいでしょう。
- 66～80点 …… 長期間（半年以上）の計画的な治療が必要でしょう。
- 81～100点 …… 各科の精密検査を受け、更年期障害のみである場合は、
専門医での長期の計画的な対応が必要でしょう。

お気軽にご相談ください。

プラセンタ 療法

更年期障害に有効な
プラセンタ療法を
ご存知ですか？



更年期障害・乳汁分泌不全に保険適用

お気軽に当院にご相談ください

更年期障害とは

更年期になると、いろいろな不快な症状を感じるようになりますが、ほとんどの人は自分なりになんらかの対処をして、日常生活を送っています。ただ、症状がひどかったり、いくつも重なって日常生活に支障が出る人の場合は、専門的な治療が必要になります。

このように、更年期にあらわれる諸症状が更年期症状であり、そのために正常な生活が送れなくなった状態を更年期障害と呼びます。

更年期障害の原因

女性は更年期が近づくと、徐々に卵巣機能の衰えやホルモン分泌の乱れが起こり、その結果、更年期症状が表れます。

発症は、日常生活の変化がきっかけとなることがあります。若い頃は生活の変化にも上手に対応出来ていたのが、ホルモンのバランスが崩れてくるこの時期は、心身ともに不安定になるため、うまく対応することが難しくなり、更年期障害を引き起こすケースが多くみられます。

症状の出やすさには、その人の持つ性格も関係します。真面目すぎて融通がきかない人や、何事にもネガティブ志向の人は要注意です。よき理解者に恵まれている人は、症状が出にくい傾向がありますので、普段から身近な人達と良い人間関係を築くようにこころがけましょう。



プラセンタ
療法が
効果的です!

プラセンタとは?

プラセンタは英語で胎盤のこと。胎児の発育に必需不可欠なものです。1個の受精卵をわずか10ヶ月程度で平均3kgにまで育て上げるための各種栄養素や生理活性物質が豊富な組織です。



更年期障害には 自然治癒力を高めるプラセンタ

プラセンタの最大の特徴として「自然治癒力」の増大があり、体の不調を慢性化させない自然薬として注目を集めています。また、肝炎と更年期障害に対する保険適用が厚生労働省から許可されている副作用の少ない医薬品です。

プラセンタの薬理作用

プラセンタの薬理効果に対する研究は数多く成されており、幾多の有用な作用が確認されてきています。

- 自律神経調節作用
- 基礎代謝向上作用
- 免疫賦活作用
- 抗疲労作用
- 抗アレルギー作用
- 血行促進作用
- 内分泌調整作用
- 強肝作用
- 乳汁分泌促進作用
- 肉芽形成促進作用
- 活性酸素除去作用
- 抗炎症作用
- 抗貧血作用
- 体質改善作用
- 抗突然変異作用



こんな所でも使われています

プラセンタ療法の現在は、医療用注射薬として、肝炎・肝硬変・更年期障害・乳汁分泌不全の治療薬として健康保険適用になっています。一方、幅広い診療域で治療に応用されています。

安全性と副作用

肝炎やエイズなどの感染のない健康なヒトの胎盤のみを原料としています。また、ウイルスや細菌は高圧蒸気滅菌により不活化されます。

次のような副作用があります。

注射部位の疼痛、発赤等や、悪寒、発熱、発疹等が起こることがあります。

その場合は、医師にお申し出下さい。



いろんな
症状に
効くのね!



お医者さんで
受けられるなら
安心だわ